

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度技術情報第21号（バレイショの疫病）について（送付）

県本土では、現在のところ発生ほ場は認めていませんが、例年4月以降、気温の上昇に伴い発生が多くなります（図1）。予防防除に重点をおき、効果的な防除に努めて下さい。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和3年度技術情報第21号

1 対象病害虫 疫病

2 対象作物 バレイショ

3 発生状況等

（1）県本土では、現在のところ発生ほ場は認めていないが、今後、気温の上昇に伴い例年発生が多くなる（図1）ことから、発生前からの予防防除が重要である。

4 防除対策

（1）葉での病徴は、下葉に暗緑色の斑点を生じ、次第に拡大し、葉裏面の健全部に接して霜のようなカビを生ずる（図2）。収穫期に雨が多いと塊茎（イモ）に菌が侵入し、感染した塊茎は腐敗する。

（2）疫病菌（*Phytophthora infestans*）は、降雨で胞子が飛散し、感染は数時間で完了する。好条件では数日で感染・発病を繰り返す、ほ場全体にまん延するため、発生してからの防除は効果が低い。

（3）防除時期と薬剤散布は、図3と表1を参考に実施する。Aグループの薬剤を発生前に必ず散布し、予防防除に努めることが重要である。その後は2週間間隔で散布するが、長雨が続く場合は、雨間や小雨中でも防除する。

（4）排水の悪いほ場では多発しやすいので、排水対策を十分に行う。

（5）収穫残渣は次作の伝染源となるので、軟腐病対策も兼ねて、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

5 参考データ

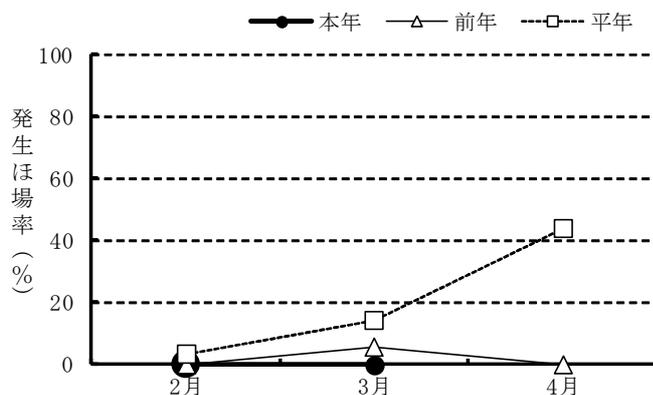
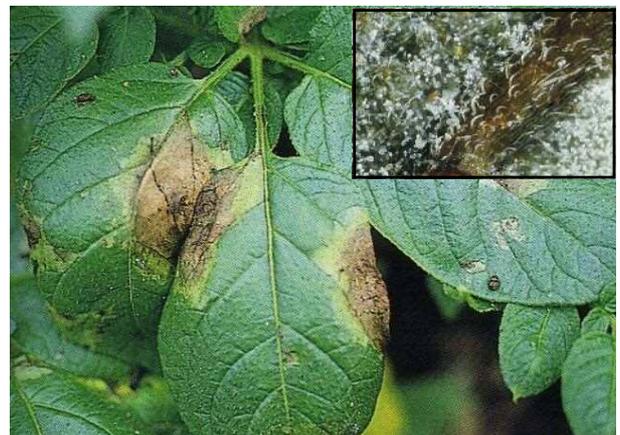


図1 疫病の発生ほ場率の推移（県本土）

図2 バレイショでの疫病の病徴
右上：葉裏面に形成された遊走子のう

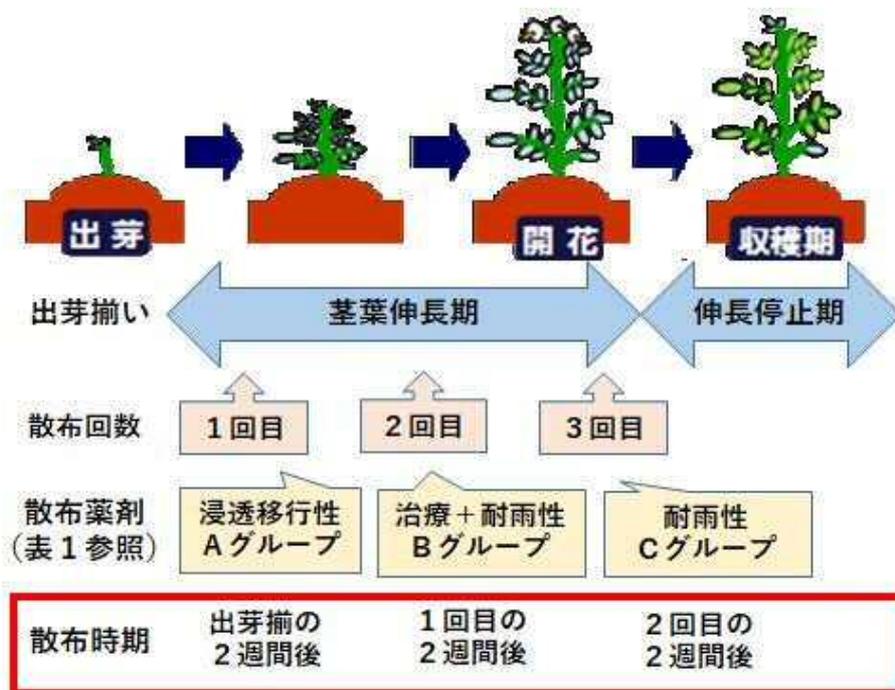


図3 疫病の防除体系 (例)

表1 疫病防除体系の薬剤

グループ	特徴	主な薬剤名
Aグループ	茎葉伸長期に散布後伸長した薬剤未付着部位へ成分が浸透移行する薬剤	フォリオゴールド リドミルゴールドMZ ゾーベックエンカンティア
Bグループ	疫病発生時に対応可能で14日間の長期残効が期待できる治療的効果と耐雨性が高い薬剤	プロポーズ顆粒水和剤 ホライズンDF リライアブルフロアブル ブリザード水和剤 ザンプロDMフロアブル ダイナモ顆粒水和剤 カンパネラ/ベネセット水和剤
Cグループ	茎葉伸長がほぼ停止する時期に仕上げ剤として長期残効が期待できる耐雨性が高い薬剤	ライメイフロアブル ランマンフロアブル レーバスフロアブル フロンサイドSC ダコニール1000 ジマンダイセン水和剤 エトフェンフロアブル
Dグループ	例年よりも降雨が多いなどの天候不順時に上記防除体系で疫病の発生を抑制できない場合にスポット的に使用する治療的効果の高い薬剤	エキナイン顆粒水和剤 ベトファイター顆粒水和剤

2021年9月30日現在